

2001年に本社の事

業部長を任せられ、工場で技術畑を歩んできた私の仕事の内容が大きく変わった。そんなときに読んだのが「グロービスMBAマネジメントブック」だ。経営学の基礎が書いてあり、マネジメントはどっつあるべきかなどを学んだ。読みやすく、事業を管理する立場になったビジネスパーソンの参考になるだろう。

経営企画担当の執行役員に昇格後は、経営学者ピーター・ドラッカーが

三菱ケミカルホールディングス

越智 仁社長



書いた「マネジメント」を何度も読み返してない。管理職の頭の整理。マネジャーの役割やコミュニケーションの本質など、管理職に求めらる心構えが分かる。難しいイメージがあるけれど、要約版は読みにくく、管理職の頭の整理にちょうどいい。ヨーロッパのCSRと日本のCSRは企業としての印象だった。本書は欧州と日本の違いなどを指摘している。読み進むうちに「CSRとは事業を通じて社会の問題を解決することであり、企業の義務である」とわかってきた。つまり経営そのものなのだ。



「CSRとは事業を通じて社会の問題を解決することであり、企業の義務である」とわかってきた。つまり経営そのものなのだ。

「マネジメント」管理職の頭の整理に

マネジメント (エッセンシャル版)	P. F. ドラッカー 著 (ダイヤモンド社)
ヨーロッパのCSR と日本のCSR	藤井敏彦 著 (日科技連出版社)
第5の競争軸	ピーター D. ビーターセン 著 (朝日新聞出版)

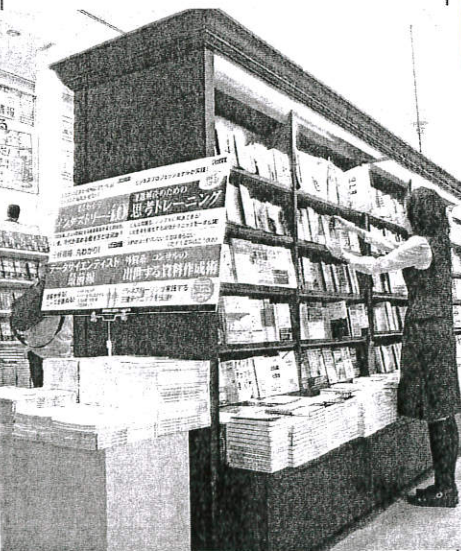
これと、ピーター・ビーターセン著「第5の競争軸」は経営者やこれから経営を担う人材にぜひ読んでほしい。第5の競争軸では品質や価格などに加え、環境・サステナビリティー(持続可能性)戦略も企業の競争力を左右すると説いている。最後に「海外大型M&A大失敗の内幕」を薦めたい。日本企業のM&A(合併・買収)の実例を挙げていて、実体としての海外企業のM&Aは難しく、互いのマネジメン

心のあるテーマができた。私の読書スタイルは開

この夏 お薦め

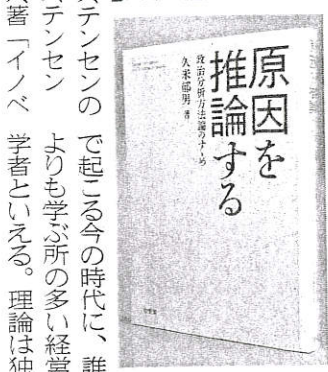
夏のこの時期は普段時間がとれない読書に時間を割ける絶好の機会だ。ただ、どんな書籍を手にとっていいのかわからないことも多い。そこで、休日に読書を楽しむ三菱ケミカルホールディングスの越智仁社長と、常日ごろ本に囲まれている早稲田大学ビジネススクールの根来龍之教授、丸善丸の内本店の松本直亮氏にお薦めビジネス書を聞いた。

自分を磨く ビジネス書



平積みしている売り場をみると時代の変化が先取りできる (東京都千代田区の丸善丸の内本店)

同じ企業にずっと勤めることが少なくなってきた現代、ビジネスパーソンがキャリアアップするには能力を高めることが欠かせない。そこで重要なのが経営を学ぶことだ。これには理論を身につける、怪論を通じて導



クリステンセン 経営論	M. クレイトン クリステンセン 著 (ダイヤモンド社)
経営	古森重隆 著 (東洋経済新報社)
推論する	久米郁男 著 (有斐閣)

「原因を推論する」は冷静に、経営をなぜ勉強するのかを正直に語っており、感動する一冊だ。自ら経験できなくて、著名な経営者の体験談からつかめることは、変化に弱いと言われる日男氏の「原因を推論する」に目を通してほしい。テ

「世界のエリ」がれている。冊一をお薦めス書の名著で

ビジネス書 人によって様 手にとってい とも多い。選 タイトルや目 ンとるのかど が共感できる れば、課題の 成長につながる けられるだろ それでも悩 「世界のエリ

丸善丸の内本店 一般書売場担当 松本 直亮氏